

筒井 俊秋 議員

Q・久田良木川排水機場の排水能力は

A・想定外の大雨には対応できないことを住民に説明する



Q

平成11年供用
されてから、東
海豪雨を始め大雨が降
るたびにポンプが運転
されてきている。

ここ数年、全国各地で
局地的な豪雨(ゲリラ豪
雨)が頻発し、被災地は
甚大な被害を被ってい
る。
豊山町も何時ゲリラ
豪雨に見舞われるかわ
からない。ポンプの排水
能力は、毎秒10トンと言
われている。設置後10数

A

久田良木川流
域の治水対策は
計画策定から約40年が
経過し、久田良木川流域
では農地の宅地化が進
み、雨水の流出抑制機能
は著しく低下している。
その結果、河川への流入
時間は短くなり、流入量
も多くなっている。
現在の宅地化の進展
を踏まえ、解析を行う
と、現状の久田良木川の
治水能力は、10年に1度
の確率で発生する降雨

年が経過し、この間、久
田良木川、堂前川の排水
能力は宅地開発等によ
り、土地の形質が大きく
変更されている。
更には、東海豪雨以降
大山川の特定河川への
指定、降雨強度の見直し
が行われている。町の治
水対策はポンプを始め
どこまで進んでいるか。
また、今後の計画はど
うなっているか。



久田良木川排水機場

に対しては不足するも
のと考えられる。

対策は、早急に久田良
木川の排水ポンプ能力
を含めた全体計画の見
直しや、雨水貯留施設の
設置、そして市街地内の
雨水排水処理について
検討を進める。当面、排
水ポンプの必要量を把
握し、検討に入る予定。

今後、治水対策を進め
るため、「10年確率を超
える規模の雨やゲリラ
豪雨のような想定外の
大雨については対応で
きない」ということを住
民に説明し、個々人で備
える意識を持つてもら
う必要がある。

そのため、意識啓発や
ハザードマップの作成・
配布などソフト面の対
策への取り組みも必要
と考える。